



特別号 5 平成 29 年 12 月 1 日発行 大阪産業大学附属高等学校図書館

図書委員広報係オススメ本特集!!

その 5

図書委員広報係が、みなさんにオススメしたい本を 1 人 1 冊選ぶ企画の第 5 弾です。

みなさん、期末テストお疲れさまでした。冬授業が始まりましたが、その後はいよいよ冬休みとなりますね。イベントが多く、何かと忙しい時期ですが、ちょっとクールダウンしたいな・・・というときに、**本を開いてみませんか?**この Library News には、たくさんの**オススメ本**が載っていますので、本を選ぶときに、ぜひ参考にしてください。今回はどんな本が紹介されるのでしょうか?最後まで読んでいただけたら嬉しいです。(両面刷りです)

ここで紹介された本は**図書館にあります**ので、気になる作品が見つかったら、気軽に来館してくださいね♪



1A1 蔭山翔太「図書館戦争」 有川浩/著 角川書店

この本は、あまり本を読まない人に、すごくオススメの本です。僕は正直、本はあまり読まないのですが、この本の題名は知っていたので、手に取って読んでみました。すると、とても面白いと思いました。特に僕がみなさんにオススメしたいところは、会話のやり取りの部分と、何かを必死に守り抜こうとするところです。戦いの間にある、登場人物たちの恋愛にも注目してほしいです。

僕は題名から受けたイメージから、すごく怖い本なのかなと思っていたけれど、実際はそうではなく、恋愛あり、笑いありの面白い本だと感じました。

もし、いま本を読んでみようかなと思う人は、是非「図書館戦争」を読んでみてください。

1A1 牧原葉月「青の数学」 王城夕紀/著 新潮社

私がこの本を手にとった理由は二つあります。一つ目は、表紙に描かれていた少女に目がひかれたこと、そして二つ目は私が数学を苦手としていることです。一つ目はともかく、二つ目は「どうして?」と思っている方もいらっしゃると思いますが、私はこの本を読めば少しでも数学への共感が生まれるのでは、と思ったのです。

ストーリーは、主人公の高校生・栢山(かやま)と不思議な少女・京香凛(かなめどかりん)の二人を中心に、にぎやかな仲間たちがからみながら、数学の天才たちが才能を競い合うものです。数学オリンピックなどの壮大な舞台の上で、少女・京香凛の「数学って何?」という問いかけをメインに、栢山はさまざまな疑問の答えを追求していきますー。

季節も冬からスタートしており、落ち着いたストーリーなので、大人だけでなく、高校生ならなおさら楽しめるかと思います。数学に青春を懸けた世界を少しのぞいてみてはいかがでしょうか?



1U2 比嘉七海「バーバパパのなつやすみ」 アネット・チゾン、タラス・テイラー/著 講談社

雨が続くバーバパパの住む町を離れて、南の島で夏休みを過ごすことになったバーバ家。とても楽しいはずの夏休みが、ほんの些細なことで子どもたちがケンカをしまい、お話はとんでもなく悪い方向へと進んでしまいます。しかし、バーバ家ならではの解決方法で素敵な夏休みになるのです。絵本だけどとても内容の深いお話です。お話だけでなく、バーバ家のみんなに癒されること間違いなしです。子どもから大人まで人気のある絵本です。是非見てみてください。

図書館には絵本もたくさんあります♪



★裏面も読んでね★

2U3 永田弥遥「よるのばけもの」 住野よる/著 双葉社

「夜になると、僕は化け物になる。」

この本は、「僕」こと主人公の安達くんの視点で物語が進みます。安達くんは、夜は化け物になりますが、昼はごく普通の中学3年生の男子です。

そんな彼がいるクラスは他と比べて異常でした。その異常の中心に、矢野さつきという女の子がいます。彼女と化け物の安達くんは、ある夜に学校で会ってしまいます。そこから僕と矢野さんは学校の『夜休み』に会うことになりました。

夜に矢野さんに会うたびに変わっていく安達くんの心と、矢野さんが何を考えているのか、少しずつわかっていくのが面白かったです。

特に私が好きなのは、矢野さんと安達くんの「何派」かという会話です。矢野さんが質問で二つの答えを用意しますが、安達くんは必ず別の答えを出します。それが読んでいて楽しかったです。

終わりがたも、最初と対になるような少し考えさせられる一言で終わっており、もう一度読んでみたくなる魅力があります。ぜひ、手に取ってみてください。



2U6 衣川竜功「この嘘がばれないうちに」 川口俊和/著 サンマーク出版

「人生において何よりも難しいことは嘘をつかずに生きることだ」ードストエフスキー。

この小説で最初に書かれている言葉です。もしも、「私は今まで一回も嘘をついたことがない」という人がいたとしたら、きっとその人は、よっぽどの正直者か大嘘つきのどちらかだと私は考えます。この小説はそんな嘘によるお話。

とある街の、とある喫茶店の、とある座席には不思議な都市伝説がありました。その席に座ると、その席に座っている間だけ望んだ通りの時間に移動できるというのです。ただし、そこには面倒くさいルールがありました。そのルールの一つは、過去に戻ってどんな努力をしても現実是不変である、というものです。何故この物語の登場人物たちは、そのルールを知ったうえで過去に戻って誰に会い、そして何を伝えたかったのでしょうか?

気になる内容はこの本を読んでみてください。きっとあなたにとって、お気に入りの一冊になると思います。

**2G1 宮代佳奈「マルモのおきて」 櫻井剛・阿相クミコ/脚本
木俣冬/ノベライズ 武田ランダムハウスジャパン**

私がオススメする本は「マルモのおきて」です。この本はドラマや映画にもなっていて、私はドラマでこの物語を知りました。

父親を亡くした薫と友樹は父親の親友である高木衛(マモル)に引き取られます。当初、衛は双子を預かるだけのつもりが、二人を離ればなれにしたくないという思いから、双子を育てることを決意しました。衛が三人で生活することを決意したシーンは、衛の心が双子たちにどんどん動かされていくのがわかるので、とても感動的です。

そして私が一番好きなシーンは、衛が双子と犬のムックから『マルモ』と呼ばれるようになったシーンです。はじめは「おじさん」や「パパの友達」と呼ばれていましたが、仲良くなるにつれて「マモル」を「マルモ」と呼ぶようになっていきました。

この本は心あたたまる内容と、笑いのある内容がたくさんつまっているのので、ぜひ読んでみてください。



3A3 五巻佳奈「ペンギン・ハイウェイ」森見登美彦/著 角川書店

友達に、ゆるいSF小説だと教えてもらい読み始めました。小学生に見えない小学4年生のアオヤマくんは日曜日だけコーヒーを飲み、いつもノートを持ち歩いて、たくさんものごとを考えています。物語は、アオヤマくんの住む街にペンギンが現れるところから始まります。そのペンギンは歯科医院のお姉さんと関係があることがわかり、その関連性をクラスメイトのウチダくんとハマモトさんと一緒に調査をするお話です。ありそうでないような話ですが、出てくる街などは想像しやすいです。いつもとは違う作者さんの世界観で、きっとひき込まれると思います。調査の結果は読んでみて楽しんでほしいです。



3A3 富永はづき「Nのために」 湊かなえ/著 双葉社

このお話は、超高層マンションの一室で、そこに住む野口夫妻の変死体が発見され、現場に居合わせた四人の証言から始まります。登場人物全員の名前にNがついていて、それぞれがNという誰かに想いを寄せ、十年後のいまと当時が交互に描かれています。私はこ

の本を読む前に、放送されたテレビドラマを見ました。もともと、湊かなえさんの作品は好きだったのですが、著者初の純愛ミステリーということで、新鮮に感じ、一番好きな作品になりました。恋愛ものが好きな方も、ミステリーものが好きな方も面白いと思ってもらえると思います。事件の真実も衝撃的なので、少しでも気になった方は読んでみてください。



**3A3 橋本まや「『なるほど!』とわかるマンガはじめての心理学」
ゆうきゆう/監修 西東社**

この本はマンガやイラストでの解説が多いので、みんなが読みやすい本だと思います。人間関係、仕事、恋愛、自分自身のこと……。それぞれにおいて上手くいくコツやポイント、またどういう行動が効くか、どういう声かけが相手を惹くかなど、自分にとってタメになる内容ばかりです。心理テストなどが好きな人にはたまらない一冊だと思います！本当の自分を知りたいと思う人はぜひ、この「はじめての心理学」で自分のタイプを見つけてみてはどうでしょうか？



**3U6 山下颯太「キケン 成南電気工科大学機械制御研究部」
有川浩/著 新潮社**

私が今回オススメする本は、有川浩の「キケン 成南電気工科大学機械制御研究部」です。「図書館戦争」や「植物図鑑」が代表作の有川浩ですが、この作品は少し有川浩らしくない作品なんです！成南電気工科大学の「機械制御研究部」通称「キケン」に入部した元山と池谷。しかし、この「キケン」は他の部から「危険」だとして恐れられていたのです！そんな「キケン」でのハチャメチャな青春を生きた青年たちの物語！男子だからできること、青春だから許される日常！男子なら誰でもがしてみたいと思うことのオンパレード(笑)。そんな作品です！じゃあ男子しか楽しめないの？そんなことはありません！女子が知ることのない男子の世界。きっとワクワクするでしょう！そんな青春の世界に皆さんも飛び込んでみませんか？興味のある方は是非読んでください！

**3K1 大畑星光「何のために生まれてきたの？ 希望のありか」
やなせたかし/著 PHP 研究所**

「困っている人、飢えている人に食べ物を差し出す行為は、立場や国に関係なく、『正しいこと』。」

この言葉は、生前、やなせたかしが残した言葉です。やなせたかしといえば、やはりアンパンマンが有名です。しかし、そのアンパンマンが生まれた時代背景を知っている人は少ないことでしょう。彼は戦争での体験を元に「正義とは何か」を考えていました。何かを守るためとはいえ、戦うというのは、また他の誰かを傷つけるということ。そう思った彼は「食べる」という行動に目をつけました。国は違えども、飢えに苦しむ人たちに食べ物を与えるというのが、正義ではなかろうか。僕はこのやなせたかしの考え方から、今の世界はどうだろうと考えました。武力で相手を従わせる紛争が絶えませんが、飢えも貧乏も消えない悲しい世界をやなせたかしが見たらどう思うのでしょうか。この本にはやなせたかしの生涯、そして彼の「優しさ」がこめられています。みなさんにも、この本を読んでいただく際には、本当の優しさとは何か、世界のたどり着くべきゴールは何かを考えてほしいです。



お知らせ

図書館ではいま、冬休み貸出期間中!!

貸出冊数: 1人 10冊まで OK

貸出期間: 1月13日(土)まで借りられます♪

新しい本が入ってきています。
ぜひ、ご利用ください♪

